信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

5年1組

竹とんぼを気持ちよく飛ばしたい
～高く　長く　美しく『私の追究』～

５月２５日。臨時休業中に，みんなで学校に１日だけ集まれることになりました。過ごせる時間は，ほんの数十分。接触もできないし大声でしゃべることもできない。でも久しぶりに会うみんなと何か遊んで過ごしたい。そんな中，子どもたちから，「竹とんぼ」をやってみたいなと提案がありました。体育館に集まって，担任が作った竹とんぼを飛ばしてみる子どもたち。うまく飛んでいくと笑顔になり，うまく飛ばなくても笑顔になる。短い時間でしたが，みんなで楽しい時間が過ごせました。「また臨時休業が終わったら，自分でも作ってみたいな」そんな子どもたちと，臨時休業明けに楽しい時間を過ごしたい。そんな風にして，私たちの竹とんぼ作りが始まっていきました。

スーッと削れると気持ちいいんだよ

臨時休業が明けると，すぐに「私の竹とんぼ作り」が始まりました。竹をどうやって削ればいいのかを知った子どもたちは，小刀を手に，竹を削り始めました。初めは「作り方の説明聞いていると，簡単そう」と言っていた子どもたちでしたが，いざ小刀を使ってみると，力の入れ方，刃の角度など微妙な感覚をつかむのは難しく，思い通りには竹が削れていきませんでした。そんな中，希にではありましたが，竹が「スーッ」と一本の棒のようになって削れていくときがあります。その様子は「竹が削れていく」というよりも「細い竹が１本離れていく」ような感じでした。「こうやって削れると気持ちいいんだよ」と言いながら，子どもたちはその感覚をもう一度味わおうと，どうやって小刀の刃を竹に当てたらよいかを，何度も何度も試していきました。ある日，「竹って顕微鏡で見たらどうなってるんだろう」そんな不思議を持った子たちが竹を見てみると，細い線が何本も見えます。また，竹の断面をよく見ると，竹の外側の方が「黒い点」がたくさんあるように見えました。それらの様子を見た子たちの，「竹ってたくさんの繊維みたいなものが集まってるんだね」，「外側の緑色しているところの方が削りにくくて，硬かったのって，内側よりもいっぱい繊維が集まってるからじゃないの」という気づきは，竹を小刀で「削る」という感覚から「はぎ取る」ような感覚へと変わっていきました。

高くて，ずっと空中にいて，ぶれないで飛ぶと，気持ちいい！

今日竹とんぼを作って思いました。作るのって難しいし，大変だし，指は疲れるし…。でも，いい感じのになるには，ていねいに頑張るしかないんだなーって。できたと思っても，うまくいかなくて，すぐに下に落ちるからバランスを「両側も同じように」と調整しなくてはなりません。だからやりました。早く飛ばしたい。遠くまで飛ばしたいです。（Tさんの日記）

「T さんの日記に書いてあった『いい感じ』ってなんだろう」という話の中で，子どもたちから「気持ちよく飛ばしたいんだ」という願いが出てきました。その気持ちよさとは「高くて，ずっと空中にいて，ぶれないで飛ぶと，気持ちいい」ということでした。「どうしたら気持ちよく飛ばすことができるだろうか」そんな「高く，長く，美しく」への問いを持った時，私たちの竹とんぼは，「竹とんぼ作り」から「竹とんぼの追究」へと変わっていきました。

「ただ単純に羽を軽くするだけだとなんか羽が弱くなっちゃう…」，「角度が少ないと，飛ばないでコマみたいに下で回る！これも面白いね！」，「軸の長さと羽のバランスすっごい大事だ。軸の棒を付け替えたら飛び方が全然違うよ」，「羽の形をまっすぐじゃなくて外側を広くする感じにすると，ブーメランみたいに戻ってくる！」「飛ばす人も大事。飛ばし方もこつがあるよ。」そんなたくさんの気づきの中で，「次はこうしたい」という願いがたくさん生まれています。

「さあ飛ばすぞ！」その時，私が作る竹とんぼがどんなふうに応えてくれるのか，いつも楽しみにしています。